

アンテオケ
宣 教 会
N E W S

第232号

2020年12月



JAMI
Japan Antioch Mission
アンテオケ宣教会

「畑は色づいて」

アンテオケ宣教会総主事 大田裕作

いつもこのニュースを読み、お祈りくださっている皆様方に心から感謝申し上げます。宣教の働きは最前線で奉仕する宣教師の奮闘はもちろんのことですが、彼らを支える諸教会と皆様方のご支援なしには決して前進しないことを今まで以上に教えられています。

去る9月22日に一日宣教セミナーを開催しました。通常の2泊3日のセミナーを、コロナ事情によりオンライン配信に変更しました。結果的にはこの決断は大変豊かな成果をもたらしました。300人を超えた視聴参加者と午前、午後、夜の3回のセッションを共にしました。奉仕者も国内各地からリアルタイムで登場され、また世界の各地



に遣わされている宣教師がたとも結び合わされた臨場感豊かなものとなりました。全体の講演も5つの分科会も活発な応答があり充実したものになりました。またその20日後に3日間持たれたFTT (Finishing the Task) のオンラインセミナーは当宣教会も協賛し、世界宣教へのチャレンジが多くの方に鋭く伝えられました。

世界の畑は色づき、宣教の主は「収穫は多いが、働き手が少ない」と今日も人を求めておられます。今、世界の教会、宣教団体や神学校が宣教の最終段階に向けて力を結集し始めています。これまで以上に未伝の部族への関心が深まっています。この2000年の間、震え続けてこられた宣教の主の心に、教会の側が共鳴し始めたと言えるでしょう。未伝地の人々は私たちが福音を携えて訪れるのを待っています。今回のニュースには各宣教師がたに、働き手や後継者の募集についてもレポートしてもらいました。主があなたの心に語りかけてくださいますように。詳しくは巻末をご覧ください。

また、この宣教の働きを前進させていくために続けてのご支援をお願いします。一昨年より、6月をアンテオケ宣教月間と名付けて、全国の教会で祈っていただいております。主事・理事・宣教師が奉仕いたします。今より来年度のご予定にお組み入れください。

Japan Antioch Mission News
Go into all the world and preach the good news to all creation.



宣教の武器

在原繁・津紀子

アルゼンチン

「神のことは生きていて、力があり……」（ヘブル4章12節）過ぐる32年間の宣教行程下、上記の「みことば」は宣教地へ向けて出発する私たちを絶えず励ましてくれました。真に、人を神に近づけ、新しくし、その生活を輝かせるものは、「みことば」以外にありませんでした。「みことば」はイエス・キリストの息（いのち）であり常に働いているからです。これは確信を持って言える事です。

国境地のすべては閉鎖、交通機関は完全ストップ、活動範囲の大幅制限などが3月に強権発令され、今日で既に7か月になります。「今をどう生きるか」「これからどうすべきか」等々、宣教地の民達の不安は増幅するばかり。その懸念は、宣教師として派遣されている私たちも例外ではありませんでした。しばらく聖書を開きながら私たちは祈り、考えました。主は私たち

に何をせよと命じておられるのか、と。静寂な祈りの中、主は鮮やかに次の二つの聖句をもって語られたのです。

「主、わが力。私はあなたを慕います。」（詩篇18篇1節）

「わたしのことは火のようではないか。また、岩を砕く金槌のようではないか。」（エレミヤ書23章29節）

「日々の礼拝」を重ねること。「みことばによる羊の養育」に励むこと。この二点が主からの御命令となって心に響いてきました。それは、「祈り」と「みことば」を武器とした牧会伝道への励みだったのです。

半径50kmと狭い距離ながら、こうして私たちの戸別訪問は始まることになりました。時間制限もあるため、一軒につき一時間と短い時ですが、明日への不安で「崖っぷち」に立たされた心理状態の民にとって、主からの直接的な語りかけ「レーマ」のみことばは力となり、「祈り」から受け取る主の臨在は、うつろに泳ぐ心を目を、明日への希望へと向けさせます。

「見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。」（IIコリント4章18節）10月17日、奥の小川で7名がバプテスマ（洗礼）。救いの喜びに輝く民の姿を目にし、心が躍ります。ご支援に感謝しつつ。（繁）



神には不可能なことはない

井野葉由美

ドイツ

今年、ハンブルグ日本語福音キリスト教会は30周年を迎え、9月6日に記念礼拝を持ちました。30年のうち、学生時代に信徒として5年間、2006年から牧会者として14年間歩みをとりにさせていただいているので、感慨深いものがあります。記念礼拝では、多くのゲストをお招きできる状況ではなかったので、アンテオケ宣教会と井野葉由美を支える会、すでに日本に帰国した方々にビデオメッセージをお願いし、それを上映しました。唯一のゲストは、今もドイツ語コースや男性サークルで日本語教会を支えてくださっているコーニツァー夫妻。彼はお祝いの言葉として、「この教会で一時期を過ごした人の多くは、この教会が霊の故郷だと言う。この教会に関わった人が今日全員集まるなら、この会堂はあふれるだろう。この教会は見えているところよりもずっとずっと大きい。初めに『ハンブルグに

日本語教会を』というビジョンが与えられた時、とても不可能な愚かな考えのように思えた。しかし、この地に日本語教会を建てることは、神のご計画だった。神は、状況が良い時も悪い時も変わることがない。そして神には不可能なことはない。（ルカ1:37）」と語ってください、一同、大いに励まされました。

当日のメッセージは、教会2代目牧師のメツガー師。かつて日本で28年宣教した後、ハンブルグ日本語教会を8年間牧してくださった方です。彼の、御言葉に立脚したぶれない信仰により、この教会の霊的基礎が築かれてきたことを感じました。30年の間、多くの方の祈りと献身があったこと、何よりも万軍の主のご熱心に導かれ支えられてきたことを感じ、感謝にあふれ、将来への思いを新たにしました。「このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競争を、忍耐を持って走り続けようではありませんか。」（ヘブル書12章1節）コロナ規制があり、新しい方々にコンタクトを取るのが難しい状況ですが、10月25日には洗礼式も行われました。状況がどうであっても、全能の神に信頼して、新しい年も歩んでいきましょう。お祈りに感謝して。

力と聖霊と強い確信



安川圭吾・美穂

タンザニア

「私たちの福音は、ことばだけでなく、力と聖霊と強い確信を伴ってあなたがたの間に届いたからです。」（1テサ1:5）タンザニアではコロナが収束して、以前のように訪問伝道が出来るようになりました。先日、知人からの紹介で、美穂とハンサ姉妹と私の3人である家族を訪問してきました。依頼主は年輩の母親と息子夫婦の3人で未伝のインド系イスラム少数民族に属しています。依頼内容は彼らが経営するレストランが繁盛するように祈って欲しいということでした。6年前に開業したものの繁盛したのは最初の3カ月のみで、それ以来、客足がピタリと止まってしまったそうです。日本であれば、レストラン経営の専門家にアドバイスを求めるとは限りませんが、経営が傾いている原因が実際的な理由ばかりとは限りません。霊的な理由で妨げられていることも多いのです。悪魔に盲目にされて、希望

を奪われ、無力感と恐れ、罪責感で動けなくなっている人を大勢見てきました。私たちはあらゆる機会を捉えて救い主イエス・キリストを宣べ伝えるようにしています。律法による救いと、恵みによる救いを対比させて、十字架の福音を伝えました。三人とも明確に罪の赦しを理解し、よみがえりを信じると告白されたので、一緒に信仰告白の祈りをしました。その後三人のために祈っていると、突然、ご主人が咳き込みはじめ、背中を丸めながら、歯を食いしばって、痛みをこらえているような様子でした。後から聞いたのですが、祈っている間、突然左足が痛みだしたそうです。悪霊から解放されると痛みはなくなりました。私たちが祈っている間に、このレストランで働くアフリカ系イスラム教徒のシェフが、何をやっているのだろうと覗きに来ました。祈り中だったので、またドアを閉めて出て行ったそうです。そのシェフからご主人に電話がかかってきました。「突然、後頭部が痛み出して熱が出てきたので早退します。」それはまるで何度もナイフで切り付けられているような痛みだったそうです。何が起こったかピンと来ました。ご主人から追い出された悪霊が、新しい家を見つけたのです。もう早退した後だったので、そのシェフが癒されるように彼らと一緒に祈りました。

（圭吾）



反日と反キリスト教国家 となった韓国

三輪修男・文子

韓国

韓国は驚くべきスピードで教会成長し、キリスト教国家になった。しかし、ここにきて反キリストが勢いを増し、教会を苦しめている。これからが、韓国の教会の実力が試される時である。

まず、中国や北朝鮮と大の仲良しである文政権は、コロナを利用して教会だけを圧迫している。感染防止の名の下、教会の礼拝と活動を閉じさせ、献金が激減している。献金は牧師や奉仕者の働きのため、また宣教活動のためには不可欠である。従って、それ無くしては教会の活動は制約を受ける。最近、会堂を売りに出した教会が多くあると聞く。さらに、私が知っているソウル近郊の某大教会では副牧師が数名解雇され、日本語礼拝も廃止になったという。反日政策とコロナにより、日本語宣教の灯が消えそうである。片や大教会の牧師たちは、教会の存続維持のためにダンマリを決めている。共に、知恵をあわせて祈

り合い、合法的な活動を続けなければならないのに。

日韓の政治問題が波瀾のように続いている。某牧師が私に、「独島（日本名：竹島）が、韓国領であることを説明してあげる！」と言ったことがあった。しかし、最近「その説明は、もう少し時間がたってから・・・」とトーンダウンした。恐らく、李栄薫博士の『反日種族主義』を参考にしたのだろうが、感情的にならずに李博士のように客観的に検証することが大切だと思う。ただ、私が警戒しているのは、争うことを止めて問題の棚上げを許せば、やがて韓国領にしましょよ！>という結末になってしまうことだ。従軍慰安婦問題は女性の尊厳の問題である。それが政治利用され、金銭問題にまで発展している。朝日新聞がある人の作り話を、調査もせずに取り上げてしまった結果、嘘が真実となり、国連の委員会にまで取り上げられて、日韓両国民の感情を傷つけた。日本による輸出管理規制の問題でも、韓国は<日本は輸出せよ>と主張し、WTOに訴えている。日本製品の不買運動が盛んなので、<日本のフッ化水素も買わない！>と言うべきなのに、それは<売らねばならない！>と言う。このように、韓国ではいつも不可解な論法を押し付けて来るので、在韓の日本人は困っている。（修男）



6人兄妹の二番目と末の私

長澤久美子

韓国

10月18日の夜、教会から遅く帰宅すると大阪にいる姉から連絡が入り、「正幸（男4人兄弟の長男）が危篤だ」と。原因は尿路感染症による高熱、さらに心不全や肺炎も起こしているとの事でした。私は6人兄妹で一番上が姉、兄が4人、私は末っ子です。両親はすでに天国へ召され、私を教会に導いた次男の兄、クリスチャンでしたが、優しくカッコ良かった大好きな兄、も46才で天に召されました。姉は我が家の初穂で、その影響で私たち兄妹は幼い時から教会に通うようになっていました。

さて、長男の兄は我が家にとって大きな存在。その兄は生後間もなく百日咳に罹り、高熱により脳が損傷し、知的障害を持つようになりました。そのせいか兄妹たちは皆弱い人たちに思いやりがあり、仲が良かったのです。私が小さい時、その兄の事でいじめられたりもしましたが、兄たちがやっつけて(?)

くれました。そんな時は気分爽快！みんな良くまとまっていたように思います。

その兄は私が小学校6年生の時、新しく建てられた山形の川西町のコロニーという施設に入所し、私たち家族から離れました。父は「東大に入るより難しい所に入ったぞ！」と、母とともに喜んでいたので覚えています。障害者を育てる親の苦労は大変な事、共に家で世話をする苦労を私たちは良く分かっています。母は「自分たちが死んだら誰が兄の面倒を見てくれるかしら」と案じていました。「大丈夫よ。私たちがちゃんとお兄ちゃんを見るから」と私は母に答えたのを覚えています。そして主の導きの中で障害を持っていても伝道しなければと、私が神学生の時にイエス様の事を分かりやすく伝えました。兄は「アーメン！」と言って信じました。ハレルヤ！歌が好きで、一緒に「主われを愛す」を歌うと、その顔はとても清らかで最高の笑顔でした！天国に行くことが約束された兄を思い、主にとっても感謝しています。その後、奇跡的に回復し、今は落ち着いています。残された仙台と相模大野にいる二人の兄たちが、長男の兄を通して主の救いに導かれるように共にお祈り下さい。支えてくださる皆様に感謝しつつ、主の恵みを祈ります。



コロナ下で思うこと

朴ダニエル・任妍貞

韓国

春に来日して夏も過ぎ、早くも秋が来ました。宣教師として献身し、ソウル市内に在韓邦人宣教と日韓教会の架け橋としての召命を受け、日本ビジョン教会を開拓して後、今年これほど長い間、ソウルを離れて過ごすとは思いませんでした。時には大変な状況の中で失望し、絶望しました。しかし、今日も八尾福音教会の礼拝の中で、主はヨセフと共に居られたとの説教を聞きながら、新たな力をいただきました。

数日前、ソウルの日本ビジョン教会の家族にこのような手紙を送りました。

「足りないこの者を、福音に仕えるしもべとして呼んでくださった主の大きな恵みに感謝します。コロナ下で経済界はもろんの事、社会、文化、教育、政治、そして宗教界にまで与える影響はとても大きいです。このような事態の中、四次産業革

命を説いているその内面は、人類の傲慢による、科学の発展と豊かさで再びバベルの塔を築こうとする高慢を見るようです。万物がうめき苦しむ中、自然界とウイルスの人間に対する警告だと感じました。

今朝、早い時間にお祈りをしながら、聖霊様が心に強く与えてくださる思いがありました。理論と論理的な説明に納得しながらも、しかし聖霊様がくださる心はこのすべての結末であり、解決は十字架の血潮と死から復活された主イエスキリストの福音によってのみなされるという事実と魂たちの切実な渇きです。

「キリストの血潮が私たちを回復させます。

キリストの血潮が私たちを新たにします。

キリストの血潮が私たちを力強くします。

キリストの血潮には力があります。

キリストの血潮には罪の呪いから来るすべての問題を解決する神様の権能があります。」

日本ビジョン教会の私の不在が半年以上になり、間もなくソウルに戻る予定です。危機感が強まり献金も増えましたが、活力を失うことがないようにお祈りをお願いします。（ダニエル）



暗闇に光

高橋真一・千恵美
モンゴル

主のご降誕をお祝い申し上げます。

家畜小屋に生まれて下さり、暖かいベッドではなく飼葉桶に寝かされた私たちの救い主。謙遜であられ、最も弱い姿で、苦しみや痛みを誕生の時から味わって下ったお姿です。イザヤ9章1～3節の通りのご降誕です。苦しみのあったところに闇がなくなる、辱めを受けたが栄誉を受ける、闇の中を歩んでいたが大きな光を見る、死の影の谷に住んでいた者たちの上に光が輝く。ハレルヤ！一人の嬰兒が生れ世界は贖われます。

ある思い出が最近よく、よみがえってきます。バギー副牧師が未だ献身される前、彼の長男サムエル君が生後1日で天に召されたときの光景です。病院は遺体を解剖し研究材料にしました。両親の“やめてほしい”との申し出を無視し2度も遺体を解剖しました。それは両親の悲しみを一層深いものにしました。

お母さんであるシネー姉は自分を責め続けていました。当時、彼らは埋葬の費用も工面できずに、小さな亡骸を段ボール箱に収めて、賛美と祈りを捧げて郊外の山に登りました。我が子を納めた段ボールを抱えるバギー兄は、完全に抜け殻の放心状態で、青ざめた顔で、眼は空中をさまよい、全く無表情で涙も流れていません。山で目印になる樹木の根元に埋葬しました。私も一緒にスコップを振るいました。みんな黙ったまま作業しました。祈る言葉も見当たらない思いでした。産まれてきた意味は何だったのか？主は何をお考えなのか？段ボール箱に寝かされ、いくつものメスの痕のサムエル君が、馬小屋と十字架のイエス様に重なって見えました。イエス様だけがバギー兄、シネー姉、そしてサムエル君に声を掛けることが出来たと思います。共にいて下さり「私も此処に居ます」と。イエス様は共に居て御声を掛けて下さる救い主です。そして私たちは主の証人です。

2020年、何故かサムエル君の出来事が思い起こされ、イザヤ9章が再び示されています。苦難のしもべとして来られたイエス様が、王の王として再び来られる日を待ち望みつつ。

PS. いま彼らは、ご夫妻とも立派に副牧師としてご奉仕しています。(真一)



小川での洗礼式

アルゼンチン 在原宣教師



Sさんの洗礼式

ドイツ 井野宣教師



コロナ後のインド系礼拝

タンザニア 安川宣教師



コロナ感染を防ぐ自主封鎖

B国 小森宣教師



今、置かれた場所で

小森康三・仁美

B国

現在はコロナ禍のため任地に戻ることができませんが、主にあって今は私たちが日本に留まる意味と目的があるのだと信じて、大切に過ごしたいと思っています。そんな中、コロナ故に開かれたオンラインによる集会や証の機会が与えられていることも恵みの一つで、新しい教会やその信徒の方々との出会いも大きな祝福です。

証の一つ。以前、B国の私たちに訪問して下さった姉妹と最近、ある教会で再会しました。彼女は宣教の召しを感じながらも確信を求めていたようで、私が「宣教に携わずに天国に帰ったとしたら天で胸を張れるか？と考えるといいかもね」と話すと、彼女は「無理です、後悔します…」と涙を流し、主の前に進み出たようでした。また、牧師をしている彼女のお父様も「違わたいんです。でも違わたくないんです。でも違

わしたいんです。でも心配です…」と涙を流しながら真実に向き合っておられ、日本のようなクリスチャン人口が圧倒的に少ない国の普通の人間が犠牲を払いながら、未伝地を福音で潤そうと宣教に取り組んでいる…レプタ二枚を捧げたやもめのような心と応答に触れ、本当に励まされ感動しました。

現在、B国は感染の第二波で連日多くの感染者が出ており、厳しいロックダウンが敷かれています。宣教地のC村も例外ではなく、村人たちの幼い信仰が守られるようにと祈りつつ、現地同労者のダンゴン先生と主のみ手にお委ねしています。現在、世界のリバイバルを学ぶ中で、過度な牧師依存からの脱却、信徒一人ひとりが聖霊に導かれて成長し、活動することで救いが広がっている原則を見るにつけ、村人たちにとりコロナ禍がマイナスになるだけではなく、むしろ自立的な信仰、イエス様とじかに繋がり導かれる信仰へと成長するように祈っています。私たちはまだ戻ることができませんが、祈りはどんな場所にも届くと信じます。こちらの水分が蒸発し、あちらに雨となって降り注ぎ潤すように、こちらでの祈りが天に届き、やがて祝福となり力となってC村に降り注ぐことを信じ、共に立ち、共に祈っていただければ幸いです。(康三)

コロナ禍の働き



宇井英樹・由美

B国

3月以来コロナの影響で、実際に集まることができないため、NLIFではすべての働きをオンラインでしています。それは職場でも同じことで、大勢の人がこの国を離れたなか、残っている外国人の多くは自宅で一日中パソコンに向かって仕事をしています。そのため、仕事が終われば、パソコンの画面から離れたという気持ちになります。そのような中、神はスモールグループに人々を送ってくださり、今ではこの都市はもちろん、トルコ、ブラジル、カナダ、カンボジアからも参加者がいます。

昨年2月にNLIFで洗礼を受けたEさんとご主人のAさんは、出産後礼拝に来られていませんでしたが、今はオンラインで毎週礼拝に参加しています。Aさんはまだクリスチャンではありませんが、礼拝後のZoomの交わりや祈りに参加することもあります。

昨年の夏からNLIFに始めた地元の青年Tさんは、昨年12月にカナダに移住しました。地元の教会に所属しながら、今でもNLIFのスモールグループに参加しています。オンラインだからこそできることです。つい先日、彼がこのグループの中で初めて「公の場」で祈りを捧げるのを見た時は、とても嬉しかったです。その祈りの後、彼は仕事が与えられました。

Pさんは、私たちのオンラインの学びに忠実に参加しています。10月初旬、Pさんは3人の子供たちとカンボジアに帰国しました。出発直前に、私たちがよく一緒に祈っている妹のQさんのことを話してくれました。Qさんは人生の中で多くの困難を経験してきました。Pさんはよく神様のことを話していましたが、Qさんは耳を傾けませんでした。しかし最近、QさんがPさんの息子に「あなたのお母さんは私のために祈ってくれているの？」とか、「神様は私の人生にも何か目的があるのか？」とか質問したそうです。Pさんとお子さんは故郷に戻り、妹のQさんを教会に連れて行く予定です。Pさんが故郷に戻ったのは、神様のタイミングだと信じています。Qさんが救われるようにお祈りください。実際に会えない状況にあって、主の働きが前進するよう、お祈りください。(英樹)



2020年という年

賀川千世美

南アジア

大気汚染が危険値になってもマスクを着けた人など見るものがなかったこの国で、マスクが当たり前の風景になりました。2020年は本当に何という年であったことでしょうか。封鎖で人との接触が遮断され不安になった人もいました。知り合いが恐れから初めて電話をかけてきました。外出が数時間許された時、一緒に散歩をしました。後で「助けを求める場がわかって楽になった」と伝えてきました。また、カフェに来るとクリスチャン批判をしていた80代の一人暮らしの外国人女性、彼女も助けを求め電話をかけてきました。ちょうど彼女のために祈った直後でした。その電話で悔い改めに導かれました。後に訪問し共に祈った彼女の目には喜びの涙を流れていました。若い頃に受洗しながら神を知らず、神を探し求めてきた人生でした。孤独と恐怖に襲われて初めて心からの助けを求め、救いを受け取

ることができました。主に感謝します。

前回お証した女学生のその後です。何千キロも離れた別の州に住む元同級生が悪霊に憑依され電話をかけてきて、知る由もないはずの彼女がイエスを信じたことを怒鳴り散らしたけれど、最後に別れの言葉を言って切ったと。悪霊は霊の世界で起こったことを距離を超えて瞬時に把握したのです。彼女は勝利に喜んでいました。すべての名にはるかに勝るイエスの名が私たちに与えられています。イエスの勝利を、神の力を讃美します。

私たちのカフェのすぐ隣は長い間ギャンブル場でしたが、ロックダウン前に移転し若い夫婦が引っ越してきました。話してみるとご主人の人脈が、私たちの今までの知り合いと重なり、切れずにつながっていた糸が見えたようでした。夫婦のため祈っています。帰省していたカフェのスタッフが戻ってきました。新たに信仰を持ったスタッフは彼の変化に家族が驚いたそうです。6月再開したカフェ、今ようやく動き始めました。2020年という年を乗り越えさせていただいたことが来年への期待とつながります。最後に、一年の皆様のお祈りお支えを心から感謝し、そして新しい年の祝福をお祈りいたします。

アンテオケ宣教会 19日 世界宣教 オンライン・セミナー

《共に生きる》ニューノーマル時代に变化するコミュニケーション

2020年9月22日(火・祝)

I・Kさん

セミナー「アフガンに捧げたDr. 中村哲の生きざま」

イエス・キリストは、このようになさったのだなあを実感。中村医師を通し、イエス様を見た。(中略) 本当に、全身で愛そう、医療に尽くそうとすると、神さまはこれほどの力をくださるのだと、信仰を熱くされた。賜物を、最大に活かし用いてくださるのだと。

Iさん

分科会①「この日本の片隅に 誰がいる? どう関わる?」

私は、実家で両親の救いに対する重荷が与えられているように思います。私自身が初穂で彼らにとってみたら、外国人のようなものかもしれません。私にとっても、彼らは外国人のように感じます。でもピリピ2にあるように、イエス様と同じ姿勢になり、へりくだって彼らに仕え、仏教圏の人たちに仕えていきたいと思われました。課題も多いですが、主の導きの中、進んでいけると信じて、歩んでいきます。

H・Nさん

分科会⑤「未伝部族への接近と伝道」

日本における私たちの教会のあり方 未伝日本にもどう接近していくかのヒントを学ばせていただきました。私たちも1割の派遣教会(未伝を追いかける教会を)目指します。

アンケートより

宣教大会「コロナ時代に前進する神のみわざ」

自分も実際に宣教の現場に遣わされていきたい 26名
この宣教大会で献身の決断をした 6名



ちえさんの祈りコーナー

皆様のお祈りをありがとうございます。2020年は、コロナウイルス感染症のパンデミックによる混乱が世界中に大きな影響を与えました。一日も早く感染終息を迎えることができますように。祈りつつ、主の栄光が、困難な状況下にある方々を包んで下さいますように。

・コロナ禍にあっても、祭りによる更なる感染拡大が予測されます。偶像礼拝から人々が解放され、霊の目が開かれて主イエス・キリストを救い主として心にお迎えする人々が起こされますように。
・スラムの子どもたちが、主のご降誕を祝い、心温まる特別なクリスマスを迎えることができますように。

みかさんの祈りコーナー

コロナ対策ロックダウンが解除された後やはり感染は広がり、状況は前より悪くなりました。教会や学校の友人知人が感染、包囲網が狭まっていると感じます。しかし不必要に恐れるのでなく、きちんと感染防止対策をして自分の身を守りながら、いまなすべきことは何かと主に尋ね、できることを重ねている毎日です。

・未伝部族伝道ネットワークのため。働き人たちの安全、経済が守られるように。コロナ禍ですべてのプログラムを中止しています。「今は祈るとき」と、互いに励ましあっています。

・個人伝道が祝されるように。聖霊様のお働きによって、霊の目の覆いを取り除かれ、イエス様の血潮の贖いを受け取ることができますように。
・私の霊性が守られ、健康も守られますように。



証し

田中潤・恵

B国

私はクリスチャンホームに生まれ、小学5年生の時に受洗しました。その頃の私はイエス・キリストが生活の中心ではありませんでした。私の信仰がリバイブされたのは19歳の時でした。その頃、サッカー選手を目指していた私は試合中に大きな怪我をしてしまい、続ける事が出来なくなりました。夢を失った私は人生の生きる意味も失い、絶望しました。その結果引きこもりの生活を送るようになり、心身共に病んでしまいました。ある時、そんな私を教会の友人がユースキャンプに誘ってくれました。私は不思議にそのキャンプに参加する気力が湧き、そこで深く主に触れられました。キリストがこの暗く汚い私の罪の為に十字架で身代わりとなって下さったこと、そしてキリストは今も生きて働かれるお方であることを知り、私もこのお方と共に生き、十字架の福音を伝える者になりたいと願い、2004年に献身しました。そんな私に世界宣教の思いが与えられたのは2014年の事でした。私はこの10年の間、奉仕の喜びはあるものの、教会と信仰のゴールがどこにあるのか分からず、まるでゴールの見えないマラソンを走らされているような感覚を感じる事がありました。そのような中で主は御言葉を通し私に目指すべきゴールを示して下さいました。「御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます。」(マタイ24章14節) 主の再臨(教会のゴール)と世界宣教の達成(未伝道部族宣教)は密接に関係している事、これこそ教会の目指すべき方向である事を受け取りました。そして同じ未伝道部族宣教を目指し宣教準備をしていた妻と出会い、結婚に導かれて今に至ります。父なる神はあらゆる霊的祝福を持って私たちを祝福し、御国を受け継ぐ者として下さいました。それだけでも十分なのに、この素晴らしい御国を受け継がせる者として、周りの人々を祝福する人生へと私を導いて下さいました。引きこもりで小さな部屋の中だけで人生を終えて行くと思っていた私に、全宇宙を巻き込んだ偉大な神のご計画の中を歩ませて頂いている主をほめたたえます。宣教の働きは必ず達成されます。主の大きな御手に全てをお委ねしながら、そのゴールを目指して歩んで参りたいと思います。(潤)

*田中潤、恵ご夫妻は2021年度中を目途に東南アジアB国に宣教師として派遣準備中です。以下、お二人の証ですので、覚えてお祈りください。(事務局)

私は子どもの頃から母に連れられて教会に通うようになり、神様の存在を当たり前のように信じ育ちました。しかし十代の頃に神様から少しずつ離れ、「死ぬ間際に神様の元へ戻ればいい。それまで罪の赦しや救いは必要ない」と思うようになりました。18歳の時、母の入院がきっかけで人生で初めて人の死について深く考えました。「もしも今、母が死んだらどこへ行くのだろう。」この問いに対して、日頃から母の信仰生活を見てきた私は、「間違いなく天国へ行く」という確信がありました。しかし自分自身の死について考えると急に恐ろしくなりました。なぜなら私は「罪と死」に対する解決方法を知りながら、ずっと拒んできたからです。その時初めて、いつかではなく「今」、罪の悔い改めと赦しが必要なのだと分かりました。罪を悔い改めてイエス様に従う決心をした時、それまで持ち続けていた罪悪感や死への恐れが消え、心が平安と喜びに満たされた事を今でも覚えています。ところが、19歳で受洗した私は、神様から委ねられた使命など考えたこともなく「いろんな所を旅しながら、自分の好きなように生きていきたい」と思っていました。ところが海外の旅の中で神様は私にも分かるように、イエス様の十字架の愛を改めて教えて下さいました。小さな頃から何度も聞いてきたはずの十字架の愛に衝撃を受け、思わずこう祈りました。「私の人生はあなたのものです。もしあなたがお望みでしたら、福音のためにどこへでもお遣わし下さい。」遠回りと思える道を歩くこともありましたが、神様は大きな御手で導き続けて下さり、祈り始めて20年経とうとしている今、家族と教会、多くの祈り支えて下さる方々と共に宣教のスタートラインに立たせて下さいました。いつか未伝の地でキリストの御名が崇められる日を望みつつ、信仰をもって踏み出して行きたいです。(恵)



アンテオケ宣教会会計報告

一般(事務局)会計収支 (2020年7月1日～9月30日)

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|--------------|-----------|---------|-----------|
| 一般献金 | 752,479 | 通信費 | 81,531 |
| 宣教師・国内スタッフ献金 | 300,000 | 出張費 | 109,570 |
| アンテオケ分担金 | 390,000 | 交通費 | 54,988 |
| | | 事務費 | 1,270 |
| | | 会議費 | 5,520 |
| | | ニュース関係費 | 505,079 |
| | | IT関係費 | 11,000 |
| | | 広告費 | 16,500 |
| | | 事務所他借料 | 270,000 |
| | | スタッフ援助費 | 690,000 |
| | | 光熱水費 | 17,258 |
| | | 備品費 | 149,109 |
| | | 図書費 | 10,000 |
| | | 接待費 | 26,924 |
| | | 業務委託費 | 20,000 |
| | | セミナー関係費 | 66,901 |
| | | 雑費 | 15,689 |
| 前月繰越 | 3,046,430 | 次月繰越 | 2,437,570 |
| 収入合計 | 4,488,909 | 支出合計 | 4,488,909 |

献金芳名リスト (敬称略・順不同) 計 149 件

教会及び団体

アルゼンチン宣教を支える会(2) 井野師を支える会(3) 宇井師を支える会(3) 恵庭福音エレベーターチャーチ 大磯キリスト(3) 大野キリスト(3) 楠川聖書 香芝ゴスペルチャーチ 片柳福音自由(2) 勝田聖書 可児福音(3) かもい聖書 川口中央(3) 関西聖書学院(2) 行田カペナント クリスチャンフェローシップチャーチ 郡山キリスト(3) 札幌福音館 佐山師を支える会(3) 西武柳沢 宣教師訓練センター 宝塚福音 垂水(3) タンザニアミッション(3) チベット宣教支援会 千代田福音 土崎グローリア 東海カレンダー 東京若枝(3) 名古屋一麦(3) 名古屋グレイス 西宮福音 日本イエス教団事務所(3) 朴師を支える会(3) 東松山福音 ビサイドチャーチ東京(2) 平塚福音(2) 北海道聖書学院学生会 保見キリスト 本郷台(3) 未伝地ミッションを支える会(3) 宮崎北(3) 三輪師を支える会 茂原キリスト モンゴルミッションジャパン 八尾福音北九州チャペル 八栗シオン(6) 大和カバル(3)

個人

明石三和 石川秀和 井野葉由美(3) 井上隆之 井原敬二(2) 井村光志 内山義彦・和子 大田裕作(6) 尾上由香 甲斐博(2) 笠原幸 兼松道子 栗山伸子 御所豊徳 佐藤将司 柴田智悦 白川賢治 高井ヘラー由紀(3) 高木攻一 高山嘉津子(2) 竹田ひろみ 谷元亜衣・ノブユキ 辻真澄 坪内貴代子 中屋一美 林正敏 播義也 星出卓也・薫(2) 松崎ひかり 松波正信・圭子(2) 三浦岸雄(3) 宮田ゆり 武藤元康 山舖岳 山田初子 吉永輝次 匿名(2)

事務局便り

● 皆さまのお祈りとお捧げ物によって、宣教師たちの現地での働き、スタッフも守られております。感謝します。

● 9月のオンラインセミナーは、300名以上の参加があり感謝でした。クリスチャン新聞にも三回取り上げていただき、主催者として励まされました。今後アンテオケで始めたSNSで、最新情報をアップしていきますが、「アンテオケチャンネル」(仮名)として動画配信を予定しています。更に世界宣教を広く伝えていくものです。ご期待ください。

● 「全国どこでも出張」は、コロナの影響もありますが、継続しています。謝礼、交通費などお伺いさせていただくものです。どうぞお申し込み、お問い合わせください。お問い合わせの際、三つほどのご希望日をお知らせください。

《事務局スタッフがひびく》

● 近くに「角川文庫」が建てたミュージアムがオープンしました。五万冊も所蔵されているそうです。聖書やマンガ・メサイヤはあるのでしょうか? アニメ神社までできています。地域の教会として執り成しています。(高山)

● 今年もクリスマスの季節となりましたが、まさかこんな状況で迎えるとは思ってもみませんでした。コロナで苦しむ方々にイエス様の光が希望となって差し込むようにと切に祈ります。(菅野)

● 顔と顔を合わせての交わりには代えられませんが、インターネット上でも御わざを見せていただいています。各SNSのフォロー、よろしくお願いします。(佐藤)



● 次号三三三号は、二〇二一年三月発行の予定です。

タンザニアで教育宣教師募集!

2021年4月から最短3ヶ月、できれば1年間、宣教師子弟を教育して下さる方を募集しています。条件は英語ができることです。ご関心のある方、詳しくは事務局までご連絡ください。

私たちも世界宣教を応援します!

世界宣教支援広告のお願い

前号より宣教支援の広告欄を設けています。ますます緊迫する世界情勢の中、一層の献身をもって宣教に進んでいくために、従来の教会・個人よりのご支援に加えて、さらに広い範囲でのご支援をお願いする次第です。

よろしくご理解とご協力を願います。

総主事 大田裕作

教会建築 ジョイ建築設計事務所



所長 寺田 晶彦
TEL 042-444-4655

VIP関西センター テナント募集

所在: 大阪市中央区北浜2-3-10

(大阪証券取引所南西向かい側)

(アクセス: 地下鉄北浜駅2番出口の正面 徒歩0分)

電話06-6232-1185 担当: 梅津